

平成30年度会員向け見学会・講演会開催

パナソニックミュージアム(松下幸之助歴史館・ものづくりイズム館)の見学と講演「パナソニックの知財活動」

11月19日(月)、当協会会員向けサービス事業の一環として、会員限定・参加費無料にて参加できる年に1度の恒例行事、企業見学会と講演会を開催いたしました。

今年度の見学先は、今年創立100周年を迎えたパナソニック(株)が新たに開設したパナソニックミュージアムです。この施設は、創業者である松下幸之助氏の言葉や、歴代の製品を通して、「企業は社会の公器」という経営理念に基づき、パナソニックの”心“を未来に伝承し続けたいという思いから、一般に開放された豊かな学びの場として開設されたものです。



当日は35名の参加者が門真市西三荘の現地施設へ集合しました。現地到着後、まずパナソニックミュージアムの概要説明と松下幸之助氏の功績動画の上映が行われた後、ミュージアム内の2つの施設、



「松下幸之助歴史館」と「ものづくりイズム館」を自由に見学いたしました。前者は、松下幸之助氏の94年の生涯を7つの年代に分けて、名言などを通じて創業者の軌跡を辿ることができるもので、貴重な遺品の展示や膨大な保存記録データを視認できるライブラリーによって、氏の経営観や人生観を振り返ることができました。後者は創業以来のパナソニック製品の

歴史を実感できる展示コーナーで、昔懐かしのテレビ、ラジオ、冷蔵庫や炊飯器等の白物家電などが大量に展示されており、昭和の時代にタイムスリップした気分を味わうことができるとともに、パナソニック製品の優れた創造性溢れるものづくり技術を再確認することができました。

見学後は、上野山会長の挨拶の後、「パナソニックの知財活動」というテーマのもと、徳田佳昭知財財産センター所長による講演が行われました。講演では、国内外の激動の知財環境の変化に対応すべく、戦略性・機動性・専門性の強化を目指した知財組織の改革や、能動的な知財活動領域の拡大を目指すための取り組みについて、特にIoT・AIの非規格特許の活用や領域横断となる技術の権利化等、知財ポートフォリオ強化による事業の優位性確保を目指すためのいくつかの事例を解説していただきました。パナソニックのような大会社においても過酷な知財環境の中では既存の領域のみならず新規領域への貢献を怠らず、様々な戦略的な知財活動が求められるという非常に有意義な講演でした。



今年度もご参加いただきました会員の皆様、誠にありがとうございました。来年度も本事業を継続して企画していきますので、何卒ご期待下さいますよう、お願いいたします。